



国立健康危機管理研究機構

JIHS Japan Institute for Health Security

国立国府台医療センター 初期臨床研修プログラム

1、はじめに

国府台医療センターは、地域に密着して診療を行う中規模病院であり、大病院ほど専門家は多くなく、専門分化も進んでいませんが、その分診療科の垣根が低い。face to faceで密な連携が行われており、診療科長と研修医との距離も近く直接指導が受けやすい環境です。

平成20年4月に国立精神・神経センターから国立国際医療研究センターに、令和7年4月に国立健康危機管理研究機構へ組織再編しました。編成に伴い、国内有数の精神科・児童精神科、心療内科とともに身体疾患の診療科も充実するようになりました。精神疾患を持つ患者の身体合併症の診療が当院の特色となっています。

近年は初期研修医募集に対してフルマッチしており、全国各地から意欲ある初期研修医が集まっています。また3~4割が女性研修医です。

内科と精神科は新専門医制度でも基幹施設になっており、継続して後期研修も可能です。その他の診療科でも連携施設として後期研修の一定期間研修が可能な科も多くあります。

国府台医療センターは精神・神経センター時代からの高度な精神科診療を継承し、肝炎・免疫研究センターと共同しながら「臨床研究、人材育成」といった国立健康危機管理研究機の機能を担う病院づくりを進めています。初期研修医でも希望すれば、上級医の指導を受けながら、臨床研究を行うことも可能です。臨床研究支援も充実しています。

2、プログラム名称

国立国府台医療センター初期臨床研修プログラム

(研修プログラム責任者：長島 彩子)

3、初期臨床研修の基本理念

病院の理念である「最善の総合医療を提供し、疾病の克服と健康の増進を通じて社会に貢献する」を受けて、国府台医療センター初期研修の研修理念は、すべての医師に必要とされる基本的な態度を身につけることである。患者を全人的にとらえ、利用可能な医療技術の中で最良のものを提供し、医療チームのリーダーとしての役割を果たすための態度、知識を学ぶことである。

4、初期臨床研修基本方針

○総合的な診療を実践する。

- ① 基本的な診察能力を身につけ頻度の高い疾患への対応を身につける。
- ② 心身両面からのアプローチが出来る総合的な臨床能力の修得を行う。
- ③ 他職種の職務と限界、チーム医療の中で自身の果たすべき役割を理解して積極的に行動する。
- ④ 患者を取り巻く環境を十分に理解したうえで、病状や社会背景に応じた最良の医療を提供する。

○生涯にわたり学び続け、リサーチマインドを涵養する

- ① 自らの臨床経験を学術的な根拠に基づくものであるかを省察する。
- ② 経験したことをまとめ、考察し、未解決の問題点を解決するように努める。

5、国府台医療センター初期臨床研修プログラムの特徴

- (1) **精神科、児童精神科、心療内科の揃った総合病院で、身体疾患と精神疾患の両方が研修できる。**

国内有数の精神科、児童精神科、心療内科を有しており、多彩な疾患かつ様々な重症度の患者を数多く診療している。精神疾患を持つ患者の身体合併症の診療も数多くこなしている。研修医もチームの一員として診療に参加し、多くの経験をすることが可能である。

- (2) **様々な疾患を臓器別診療科の垣根の低いチーム診療の中で研修を行う。**

地域で発生するcommon diseaseを中心に、専門性の高い希少な症例の診療も行っている。最も長い統合内科研修では総合内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、リウマチ・膠原病・腎臓内科の合同になっており、臓器別診療科の垣根を越えたチームで診療にあたることもある。初期研修では多彩な疾患を同時に幅広く研修を行う。その他の診療科研修においても、診療科の垣根が低く、密なコンサルトが容易で、数多くの経験を積むことができる。

- (3) **規模と地域が異なる国府台医療センターと国立国際医療センターが共同して研修を行う。**

大学病院同様に専門性が高く診療科が揃っている東京都新宿区の国立国際医療センター(以下センター)と密に連携しており、救急研修、産婦人科研修はセンターでの研修を行う。

- (4) **自由選択期間を長く確保し、志望に応じた研修計画を組むことができる。**

28週間の自由選択期間があり、特定の科を複数回ローテし研修することも可能である。

- (5) **臨床研究を支援する体制が整っており積極的な指導を受けることができる。**

国立健康危機管理研究機構の事業部門として、肝炎免疫研究センターを中心に臨床研究が盛んにおこなわれている。臨床研究支援室を中心に研究に関わる様々なサポートも受けられる。研修医も希望があれば上級医の指導の下で臨床研究を行うことが可能であり、約半数の研修医が臨床研修を行っている。

6、研修カリキュラムとローテーション

研修科目	診療科	研修施設	研修期間	研修実施責任者	指導医	備考
内科系	統合内科	国府台医療センター	16週	—	—	総合内科、糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、リウマチ膠原病/腎臓内科の合同ローテート
	消化器・肝臓内科		8週	—	—	
	心療内科		4週	—	—	

救急		国立国際医療センター	4週	放生雅章	廣瀬恵佳 船登有未	
		国府台医療センター	—	—	—	宿日直
外科系	外科	国府台医療センター	8週	—	—	
	整形外科		4週	—	—	
	外科選択必修		4週	—	—	救急科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科から1科を選択
麻酔科		国府台医療センター	4週	—	—	
精神科		国府台医療センター	4週	—	—	
産婦人科		国立国際医療センター	4週	放生雅章	中西美紗緒 富尾賢介	
小児科		国立国際医療センター	4週	放生雅章	瓜生英子 水野貴基	
		国立病院機構下志津病院		鈴木修一	鈴木由美	
		柏厚生総合病院		荒木和憲	荒木和憲	
		松戸市立総合医療センター	8週	森雅人	鈴木一広	小児科研修を8週間行う場合は、選択期間を4週間充てる
地域医療		大野中央病院	4週	長谷川靖祐	長谷川靖祐 近藤春彦	千葉県市川市
		吉岡医院		吉岡雅之	吉岡雅之	
		吉野内科・神経内科医院		吉野英	吉野英	
		渡辺医院		渡辺周之	渡辺周之	
		やまが在宅クリニック		山賀亮之介	山賀亮之介	

	鈴木医院		鈴木健	鈴木健	
	金町駅前脳 神経内科		内野勝行	内野勝行 国松東旭	東京都葛飾区
	聖心醫院		小田川幸成	小田川幸成	
	やごうクリニッ ク		矢郷祐三	矢郷祐三	東京都板橋区
	上田医院		上田聡	上田聡	千葉県市川市
選択科	国府台病院	26- 28週	—	—	選択可能科は下記 ⑨参照

- ① 1診療科の研修期間は、4週間を1クールとして行う。ただし、第1クールと第2クールは、6週間とする。選択科については2週間単位で研修できる診療科もある。
- ② 内科については、「統合内科」16週間、「消化器科」8週間、「心療内科」4週間とする。
- ③ 「救急」については原則として、東京都新宿区の国立国際医療センターでの研修を4週間行い、国府台医療センターでの宿日直も救急研修の一貫として行う。
- ④ 病院で定めた必修科目の外科については、「外科」が2クール、整形外科を1クール、外科系選択必修として1クールを「救急科」「外科」「整形外科」「脳神経外科」「泌尿器科」「眼科」「耳鼻咽喉科」の中から1科を選択して行う
- ⑤ 「小児科」は2年目の研修とし、国立病院機構下志津または柏厚生総合病院小児科を選択した場合は1クール、松戸市立総合医療センター小児科を選択した場合は2クールの研修となる（松戸市立総合医療センターでの2クール研修の1クール分は選択科の期間を充当する）。
「救急」「産婦人科」前後の選択枠（1クール）のみ国立国際医療センター小児科の選択可能
- ⑥ 「産婦人科」は国立国際医療センターにて1クール行う。
- ⑦ 「一般外来研修」は地域医療、統合内科、外科、小児科で行う。
- ⑧ 地域医療は1クールで大野中央病院、聖心醫院、吉岡医院、金町駅前脳神経内科、吉野内科・神経内科医院、やごうクリニック、渡辺医院、やまが在宅クリニック、鈴木医院より1つを選択して行う。
- ⑨ 自由選択期間は7クールで、当院で決められた選択期間で行う。当院で選択できる診療科は「眼科」「耳鼻咽喉科」「放射線科」「病理」「統合内科」「消化器科」「心療内科」「外科」「脳神経外科」「泌尿器科」「整形外科」「精神科」「児童精神科」「麻酔科」「救急科」とする。ただし、「放射線科」と「病理」については、併せて1クールまで選択可能とする。

《1年目》

1クール (4/8~5/17) ※6週	2クール (5/18~6/28) ※6週	3クール (6/29~7/28)	4クール (7/27~8/23)	5クール (8/24~9/20)	6クール (9/21~10/18)	7クール (10/19~11/15)	8クール (11/16~12/13)	9クール (12/14~1/17) ※5週	10クール (1/18~2/14)	11クール (2/15~3/14)	12クール (3/15~4/11)
統合内科	精神科	消化器・肝臓内科		整形外科	国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）	麻酔科		外科	
統合内科	心療内科	麻酔科	精神科		国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）	統合内科		消化器・肝臓内科	
統合内科	外科		統合内科		整形外科	精神科	国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）	麻酔科	消化器・ 肝臓内科
消化器・肝臓内科		外科		統合内科		心療内科	精神科	国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）	麻酔科
麻酔科 麻酔科4週 救急科2週	統合内科		精神科	消化器・肝臓内科		外科		心療内科	国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）
精神科	麻酔科 麻酔科4週 救急科2週	統合内科		外科		消化器・肝臓内科		統合内科		国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）	
消化器・肝臓内科		精神科	整形外科	統合内科		麻酔科	外科		統合内科		
心療内科	麻酔科 麻酔科4週 救急科2週	統合内科		精神科	外科		整形外科	消化器・肝臓内科		統合内科	
精神科	統合内科	消化器・肝臓内科		心療内科	統合内科			整形外科	麻酔科		外科
整形外科	統合内科	心療内科	麻酔科		精神科	統合内科		消化器・肝臓内科			

《2年目》

13クール (4/12~5/16) ※5週	14クール (5/17~6/13)	15クール (6/14~7/11)	16クール (7/12~8/8)	17クール (8/9~9/5)	18クール (9/6~10/3)	19クール (10/4~10/31)	20クール (11/1~11/28)	21クール (11/29~ 12/26)	22クール (12/27~1/30) ※5週	23クール (1/31~2/27)	24クール (2/28~)
心療内科		統合内科			地域（仮）	小児科（仮）					
外科		統合内科		整形外科			地域（仮）				
消化器・ 肝臓内科	心療内科				小児科（仮）	統合内科			地域（仮）		
			整形外科	統合内科			小児科（仮）	地域（仮）			
整形外科		小児科（仮）		心療内科	統合内科		地域（仮）				
選択 （センター小児科or 国府台）	整形外科	心療内科				地域（仮）			小児科（仮）		
国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）	心療内科			地域（仮）		小児科（仮）			
国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）		小児科（仮）				地域（仮）			
外科		国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）		選択 （センター小児科or 国府台）				小児科（仮）	地域（仮）		
	外科		国際医療センター（仮） （産婦人科・救急各1クール）			選択 （センター小児科or 国府台）		地域（仮）			

7、研修管理体制

7-1、研修管理委員会

- プログラムの管理運営のために研修管理委員会を設置する。国府台医療センター副院長を委員長とし、プログラム責任者、副プログラム責任者、医療教育・臨床研究支援部門の代表者、看護部等コメディカル職責代表者、協力型臨床研修病院の研修実施責任者、院外

の有識者を委員とする。別に研修管理委員会規定を定める。

7-2、教育委員会

- ・ 教育委員会は毎月開催する。構成メンバー（医療教育部門医師、各診療科から選任された医師、事務担当、研修医各学年正・副代表）。研修医に関することを検討審議する会議、研修医自らも正式メンバーとして直接意見を述べることができる。

8、研修評価

8-1、研修医評価

- ・ 360℃評価にて、指導医、コメディカル（看護部、薬剤部、検査部、リハビリテーション科、ソーシャルワーク室）、患者（患者ご家族）からの評価を受ける。研修医自身の振り返り評価も行う。
- ・ これらの結果より①研修医本人への研修態度や必要な能力のフィードバックと②研修修了認定を行う。

目的	内容
①研修医本人へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none">◆ PG-EPOC2 を用いて、ローテーションごとに、指導医、コメディカルの指導者からの研修医の評価を受ける。また、研修医自身の振り返り評価も行う。◆ 指導医からの評価は適宜、面談時や必要時に研修医本人にフィードバックする。◆ 研修の進捗状況を1年目2-3月、2年目9-10月に行われる医療教育部門との面談にて確認する。面談の結果、十分な研修ができていないと判断された場合、ローテーション延長、ローテーション変更等も検討する。
②研修修了認定	<ul style="list-style-type: none">◆ 2年時の終わりに、研修修了認定のための総括評価を行う。◆ 研修修了の要件は厚生労働省「臨床研修の到達目標、方略及び評価」に記載されているが具体的には以下が必要である。<ol style="list-style-type: none">1. 必修科目、選択必修科目の研修を修了すること。2. 研修休止期間が90日以下であること。3. 法令を遵守し、医療の安全を確保した上で、患者に不安を与えずに医療を提供できること。4. 経験すべき症例の病歴要約を作成すること。5. インシデントレポートを1年で10回以上提出すること。6. 研修修了発表会で準備をして発表すること。

8-2、指導医、プログラム評価

- ・ 研修医による指導医評価、プログラム評価も行う。結果は診療科、指導医、各部署に適宜フィードバックする。
- ・ 研修医、指導医によるプログラム評価も行う。結果はプログラム修正や作成に反映させる。

8-3、臨床研修の未修了と中断

8-3-1 未修了

- ・ 研修期間修了時に、当該研修医の研修休止期間が 90 日を超える場合には未修了とする。90 日を超えた日数分以上の日数の研修を行うこと。また、必修分野で必要履修期間を満たしていない場合も未修了として取扱う。不足する期間以上の期間の研修や必要な診療科における研修を行う。

8-3-2 中断

- ・ 研修医が臨床研修を継続することが困難であると認められた場合は、研修管理委員会が当該研修医の評価を行い、院長に対して、中断を勧告することができる。院長は研修管理委員会の勧告または研修医の申し出を受けて当該研修医の臨床研修を中断することができる。研修医の中断が決定した場合は、研修医に対して適切な進路指導相談を行う。

8-4、指導医、上級医、指導者

- ・ 診療科長がローテーション中の指導責任者となる。
- ・ 診療科長が指導医を選定する。
- ・ 指導医は、7年以上の臨床経験を有し、指導医講習会を受講している常勤医が任命される。
- ・ 指導医資格を持たない、初期臨床研修を終えた常勤医師は上級医として、指導医と共に初期臨床研修医の指導にあたる。
- ・ 指導者は医師以外に初期研修医を指導する者で、看護部では看護部長、看護部副部長、師長、副師長、薬剤部では薬剤部長、薬剤師、ソーシャルワーカーでは医療社会事業専門職が任命される。

9、教育関連行事

9-1、オリエンテーション

- ・ 1年次4月初旬より1週間。国府台病院の概要を理解し、職員としての役割を認識してもらうために行う。
- ・ ローテーションもオリエンテーション期間中に決定する。選択に関しては、後日適宜希望調査と調整を行う。
- ・ オリエンテーションの項目：

《全職員共通》

病院の概要と機能、NKMCと経営、就業規則、情報セキュリティ、職業倫理と健康管理、緊急対応、院内感染防止、医療安全管理、災害対策、臨床検査/薬剤部/放射線科/医事室/専門看護師/認定看護師/リハビリテーション/栄養管理室/ソーシャルワーク室の業務。褥瘡対策、地域医療連携、NST（Nutrition Support team）、メンタルヘルス

《初期研修医対象》

研修プログラム/ローテート説明、ローテーション決定、同意書の取り方、技術演習（採血、血液培養、留置針挿入、経鼻胃管、導尿）、電子カルテ研修、剖検とCPCLレポート、感染症診療の基本、保険診療について、病名登録・DPC、医師人生の歩き方、医療安全ポケットマニュアルと臨床倫理、虐待対策、医師臨床研修ガイドライン2020に基づく研修医の評価、当直前勉強会、精神科を受診すること（せん妄、不眠の対応も含めて）、よいカルテの書き方、すぐに使える血糖コントロール、図書館とUpToDate、日常臨床から臨床研究へ

令和8年度オリエンテーション（初期研修医・レジデント）

目的：国府台医療センターの概要を理解し、職員としての役割を認識する

日時：令和8年4月1日（水）～ 8:30～17:15頃

会場：外来管理治療棟5階講義室、肝炎・免疫研究センター 研修室、一般病棟会議室

異動・採用レジデント必須参加

異動・採用レジデント任意参加

初期研修医のみ参加

月日	8:30	9:00	9:10	9:15	10:00	10:45	11:30	12:00	13:00	14:50	15:00
4月1日（水）	辞令交付（異動者等）<中会議室>	概要説明<講義室>	辞令交付<講義室>	病院の概要と診療機能<講義室>	個人情報管理業務概要<講義室>	NKMCと経営<講義室>	事務手続き<講義室>	昼食	各職場紹介（ポイント）（下段再掲）<講義室>	休憩	就業規則情報セキュリティ等<講義室>
	山田院長	管理課		山田院長	外谷管理課長	武田事務部長	管理課		各職場担当者		平井管理専門職

月日	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	14:40
13:00-14:50	臨床検査	薬剤部	放射線科	医事室	専門看護師認定看護師活動紹介	褥瘡対策	地域医療連携	栄養	リハビリ	NST	ソーシャルワーク室
	渡邊病理検査主任	高橋副薬剤部長	加藤診療放射線技師長	高橋医事専門職	専門看護師認定看護師	小岩井交際排他ケア認定看護師	森崎看護師長	中谷栄養管理室長	福田理学療法士長	足立総合内科医師	薬師寺SW

月日	8:30	9:15	9:30	12:00	13:00	15:30	15:45	16:30
4月2日（木）	職業倫理コンプライアンス（肝炎・免疫研究センター）	緊急対応（伊・麻・野）	院内感染防止（肝炎・免疫研究センター）	昼食	医療安全管理（肝炎・免疫研究センター）	休憩	メンタルヘルス（肝炎・免疫研究センター）	災害対策（肝炎・免疫研究センター）
	平井管理専門職	外谷管理課長	大藤呼吸器内科医師 美寺感染管理認定看護師		今村医療安全・感染対策部門長 伊藤2北病棟医長・高橋副薬剤部長・小野寺医療安全管理担当部長		田村心療内科医師	長島救急科医師

月日	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00
4月3日（金）	医師人生のスタートに当たって<講義室>	勤怠管理システム・日当直の扱い	保険診療の仕組み	病名登録・DPC	剖検レポートとCPC	感染症診療の基本	昼食	技術演習（採血、血培、末梢ルート、尿カテなど）<講義室>
	勝山医療教育部門長	庶務係	高橋医事専門職	田宮診療情報管理係長	大出臨床検査科診療科長	大藤呼吸器内科医師		長島副医療教育部門長・研修医2年目

月日	8:30	9:30	10:30	11:30	12:00	13:00	14:15	15:30	16:00	16:30
4月6日（月）	医師人生の歩き方、臨床倫理、医療安全ポケットマニュアル	図書館とUpToDate	日常臨床から臨床研究へ	電子カルテの書き方	昼食	院内オリエンテーション<講義室>	医師臨床研修ガイドラインに基づく研修医の評価	同意書の取り方と意義	すぐに使える血糖コントロール	精神科を受診すること
	狩野リウマチ膠原病科診療科長	勝山医療教育部門長	勝山医療教育部門長	勝山医療教育部門長		長島副医療教育部門長	長島副医療教育部門長	青木肝臓内科医師	萩原糖尿病内分泌科医師	松村精神科医師

月日	8:30	9:00	9:45	10:45	11:30	12:00	13:00
4月7日（火）	虐待対策	当直前勉強会①	当直前勉強会②	休憩	当直前勉強会③	教外外来オリエンテーション	電子カルテ研修<一般病棟会議室>
	宇佐美副医療教育部門長	長島副医療教育部門長	長島副医療教育部門長		長島副医療教育部門長	長島副医療教育部門長	長島副医療教育部門長・研修医2年目

※オリエンテーション対象外：当院初期臨床研修医からレジデント採用になった方、内科・精神科レジデントで3～12カ月の外部研修から戻られた方
※センター病院からローテートで来られた方はオリエンテーション対象

9-2、研修医勉強会

- ・ 月1回程度、研修医向け勉強会を開催。企画運営は研修医自身で行い、医療教育部門の医師、各科教育担当の上級医やレジデントがサポートする。
- ・ 研修医が専門の上級医から受け身での勉強だけではなく、研修医自身が知りたい内容で企画し、研修医自身が教えるスキルを向上させることも目標としている。
- ・ 具体的には、研修医2年目が企画・運営し、講師も行うことで、自身がより深く勉強し、また1年目と近い目線で教えることを重視している。

《これまでの研修医勉強会のテーマ》

救急初期対応の基本、外傷の初期対応、骨折の診断と固定、ショックの診断と対応、血液ガスの読み方、酸素の使い方、人工呼吸器の基本、栄養療法の基本、中心静脈カテーテルとPICC、リハビリ、発熱患者の考え方、抗菌薬の考え方と使い方、培養結果のみかた、意識障害、頭部CTのみかた、脳波のみかた、めまい、アルコール依存症、せん妄と不眠、胸部レントゲンの読み方、心電図と不整脈、急性腹症、消化管出血、イレウスの画像診断、便検査、腎機能障害を、尿所見の読み方、在宅介護について、ソーシャルワークと社会資源、死生観とDNAR

9-3 研修医ハンズオンセミナー

- ・ 不定期開催、救急部にてエコー、中心静脈穿刺、外傷（骨折、捻挫、打撲）、胸腔ドレーン、動脈圧ラインなどを少人数のハンズオンセミナーを行う。

9-4、CPC（Clinico-Pathological conference）

- ・ 年4-5回不定期開催（第4木曜日夕方）

9-5、採血実習

- ・ 年1-2回、職員検診の採血を指導のもとに行う。

9-6、予防接種実習

- ・ 年1-2回、職員の予防接種を指導のもとに行う。

9-7、臨床研修発表会

- ・ 2年間の研修の締めくくりとして研修医修了発表会を2年次の3月に行う。
- ・ 研修期間に経験した症例や取り組んだ臨床研究をまとめて、上級医の指導を受けて準備し、発表する。
- ・ 平成25年度からはベストプレゼン賞を設けて、最も優れた発表をした研修医を表彰している。

《2025年度研修修了発表会》

No.	タイトル
1	原発性副甲状腺機能亢進症から高度な高Ca血症を来した一例
2	1型糖尿病患者における甲状腺疾患合併の実態—多腺性自己免疫症候群(APS)の観点から
3	糖尿病患者における食行動の血糖コントロール・肥満への影響に関する横断的観察研究
4	松果体腫瘍の放射線治療による動脈硬化から脳梗塞を発症した一例
5	虐待によって小児白内障に至った一例
6	日当直中のコメントが研修医の日当直中の仕事量に与える影響、前向き観察研究
7	生物学的製剤変更との関与が示唆される急性前部ブドウ膜炎の一例

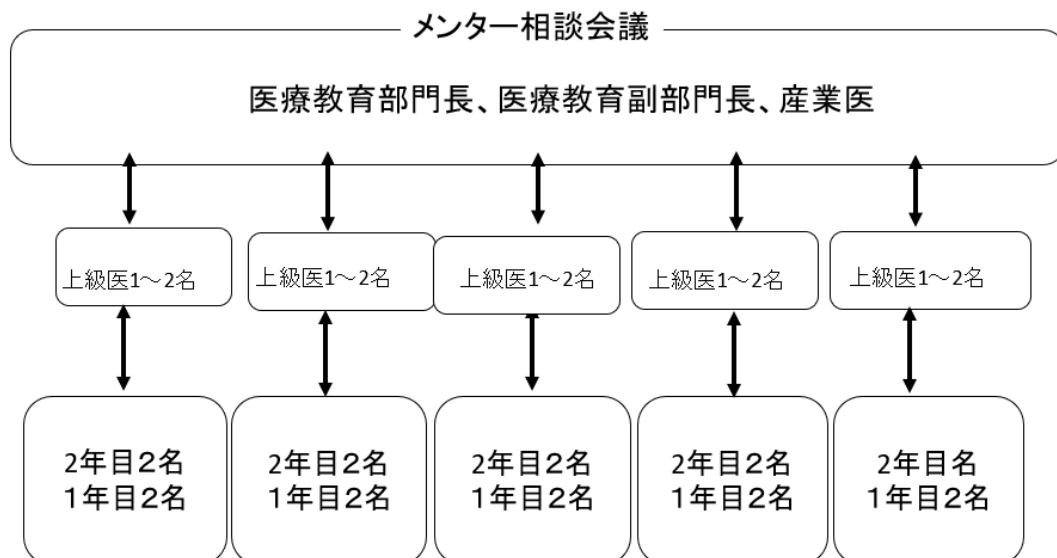
8	頭痛を主訴に入院となり内頸動脈解離が発覚した一例
9	糖尿病性腎症患者におけるミネラルコルチコイド受容体拮抗薬フィネレノンの腎関連パラメータへの影響に関する後ろ向き観察研究
10	皮膚筋炎関連間質性肺炎のステロイド治療中に腸管気腫症を来した1例

9-8、その他

- 心療内科主催の研修医向け入門セミナーや各科の抄読会、臨床研究講習・医療安全・NST (Nutrition Support Team) ・ICT(Infection control team)・オープンカンファレンス (内科・外科・精神科合同カンファレンス) などさまざまな勉強の機会を設けている。

10、メンター制度

- メンターとは、年間を通して継続して研修医の相談役になる上級医であり、研修医自身が依頼してメンターを決める。比較的年齢の近いメンターが気軽な相談役となり、研修や生活に関するアドバイスを行う。
- レジデント2、3年目/フェロー/医員の中から1～2人メンターを研修医が依頼。
- 教育部門長、副部門長はメンターの相談役となる。必要に応じて研修医からの直接相談も受ける
- 2年目研修医も1年目の相談役になる。
- メンターは研修医と個別面談をする（1年目研修医は必須）。
- 問題が生じたらメンター相談会議を開いて対応を協議する。



11、チーム医療への参加

- 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team: NST) 、緩和ケアチーム、感染管理チーム (Infection control team: ICT) 、医療安全、臨床倫理など、様々チーム医療が行われている。初期研修中にこれらのチームに参加する機会を確保する。具体的な参加方法は担当者と協議の上

決定した後に連絡する。

12、初期臨床研修医の募集と採用の方法

12-1 応募資格

- ・ 医師臨床研修マッチング参加者で、下記のいずれかに該当する者とする
 - ① 令和10年3月までの大学卒業予定者で、同年4月までに医師免許取得見込の者
 - ② 大学卒業で、令和10年4月までに医師免許取得見込の者

12-2 募集人員 10名

12-3 応募手続

- ・ 当院指定の採用願書、履歴書、大学卒業見込証明書または大学卒業証書の写し、大学成績証明書、CBT試験結果の写しを提出期限まで、国府台医療センター管理課庶務係長宛てに提出する。
- ・ 提出期限はホームページで告知する。

12-4 選考方法

- ・ 書類選考 及び 面接（8月中（予定）に2回面接を行う、希望日を優先するが人数で調整する。）

12-5 結果通知

- ・ マッチングに参加し、結果発表後に仮契約を行う。

13、初期研修医の処遇

13-1 身分：常勤職員

13-2 給与・勤務時間等：国立健康危機管理研究機構規程により定める

13-3 時間外勤務：あり

13-4 当直：あり 月4回程度

13-5 宿舍：あり

13-6 通勤手当：あり

13-7 社会保険：国立健康危機管理研究機構健康保険組合加入・厚生年金

13-8 労働保険：労働災害補償保険・雇用保険

13-9 健康診断：年2回

13-10 医師賠償責任保険：任意加入

13-11 外部の研修活動：学会、研究会等への参加可 補助あり（取決めによる）

13-12 アルバイト診療の禁止

臨床研修医は臨床研修に専念するもとし、臨床研修病院および臨床研修協力施設以外の医療機関における診療を禁止する。